

③土石の採取又は鉱物の掘採

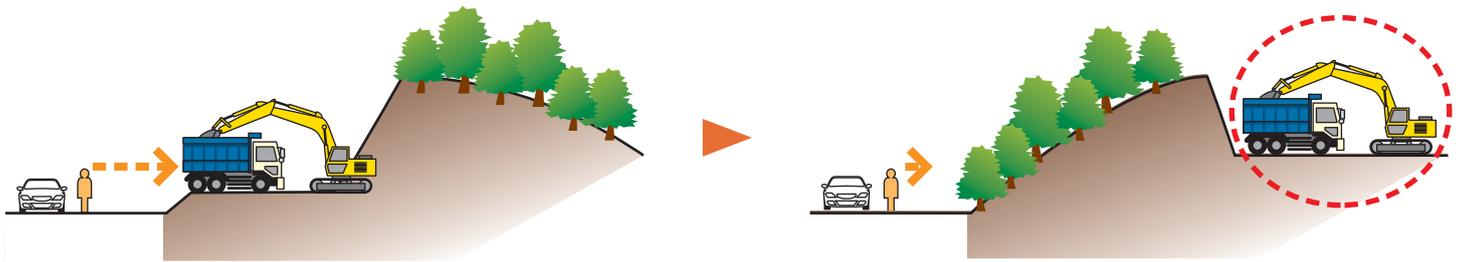
J1 採取の方法

基準

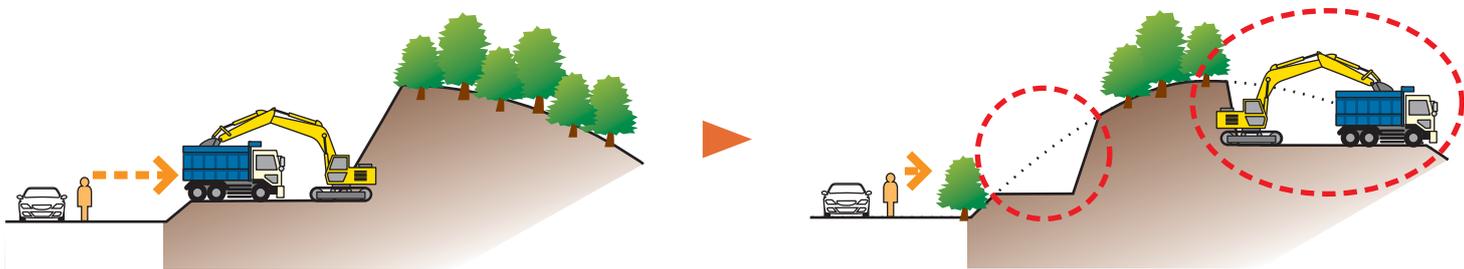
○土石の採取又は鉱物の掘採の位置や規模を工夫し、道路や公園、誇れる視点場等の公共の場から目立ちにくくすること。

■具体的な配慮の例■

○できる限り道路や公園、誇れる視点場等の公共の場所から見えない場所を行為地として選定する。



○やむを得ず公共の場所から行為地が見える場合は、採取又は掘採を行う場所を分割するなど、行為地が目立ちにくくなるよう配慮する。



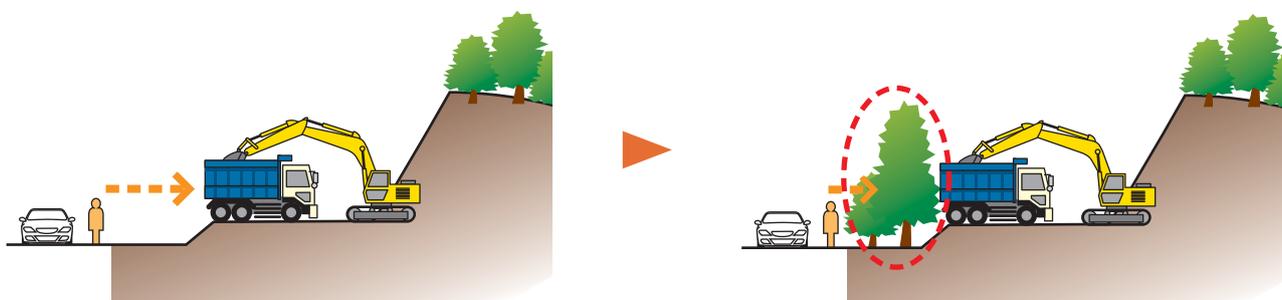
J2 遮へい

基準

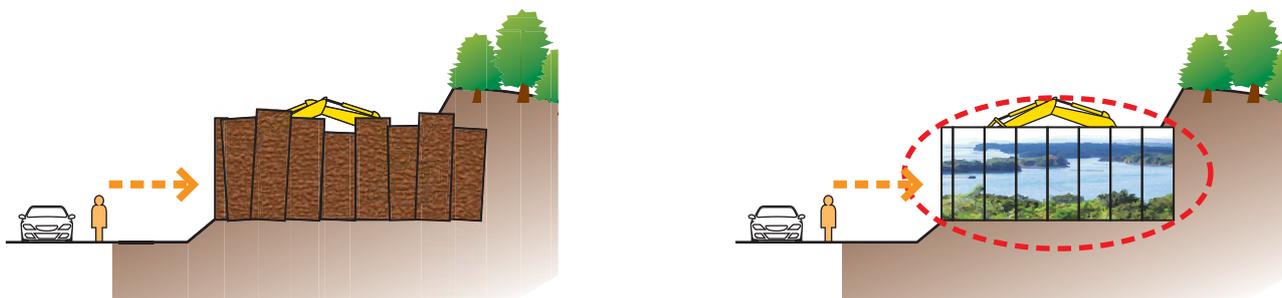
○行為地が公共の場から見える場合は、できる限り植栽又は塀等により遮へいし、背景や周辺の景観との調和に配慮すること。

■具体的な配慮の例■

○行為地が公共の場所から見える場合は、圧迫感のない植栽や塀などにより遮へいすることで、歩行者等に安心感を与えるよう配慮する。



○行為地の周囲を塀等で囲う場合は、圧迫感や威圧感を与える鉄板などによる遮へいは避け、歩行者等に安心感を与えるよう配慮する。

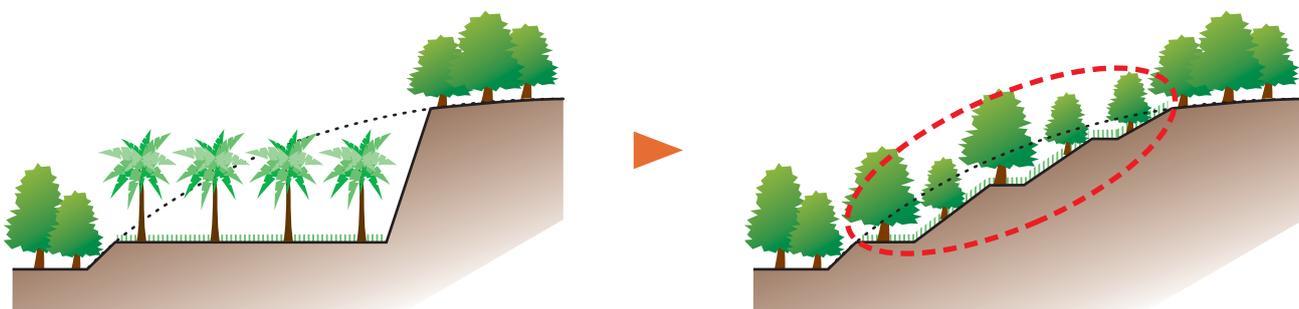


J3 緑化

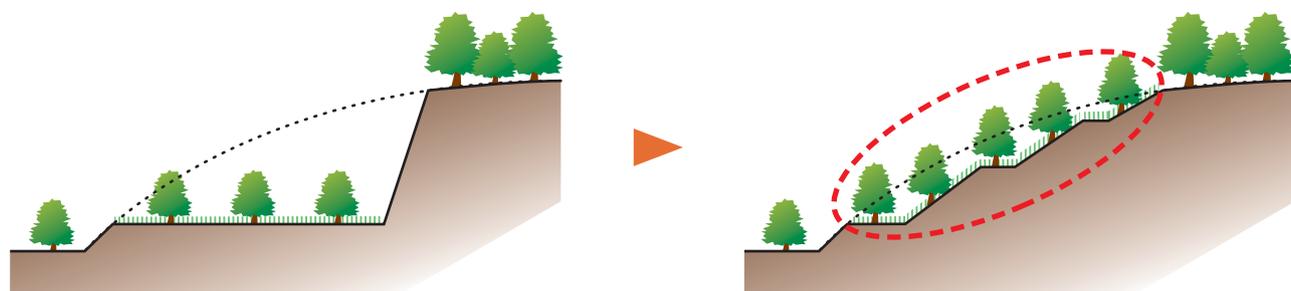
基準 ○採取又は掘採の跡地は、できる限り周辺の植生と調和した緑化を行うこと。

■具体的な配慮の例■

○緑化にあたっては、その地域に自生し、よくみられる樹種を選定することにより、植生の保護に配慮する。



○行為後にできる限り多くの部分が緑化できるよう、のり面が緩やかになる採取又は掘採計画とし、周辺の景観との調和に配慮する。



○採取や掘採を終えた部分から順次、緑化に着手するなど、地表の土砂が露出する期間ができるだけ短くなるよう配慮する。

